

参考様式

令和4年度みどりの食料システム戦略緊急対策交付金のうちグリーンな栽培体系への転換サポート

産地戦略

事業実施主体名：佐久園芸生産振興協議会

都道府県名：長野県

対象品目：レタス、はくさい、キャベツ

策定年月：令和5年2月

目標年次：令和9年

※事業実施計画における目標年度の翌年度から5年目とする。

環境負荷軽減の取組

	化学農薬の使用量低減	○	化学肥料の使用量低減		有機農業の取組面積拡大		温室効果ガスの削減 (水田からのメタンの発生抑制)
	温室効果ガスの削減 (バイオ炭の利用)		温室効果ガスの削減 (石油由来資材からの転換)		温室効果ガスの削減 (プラスチック被覆肥料対策)		温室効果ガスの削減 (CO ₂ 、N ₂ Oの排出削減)

※ 複数の栽培体系を検討した場合は、栽培体系ごとに産地戦略を策定すること。

第1 事業実施地域の現状と目指すべき姿

1 事業実施地域

長野県佐久農業農村支援センター管内（小諸市、佐久市、軽井沢町、御代田町ほか）

※事業実施計画書第1の4の事業実施地域を記載。

2 事業実施地域の現状

佐久地域の野菜生産は、冷涼な気候や大消費地に近い立地条件を活かし、レタス類、はくさい、キャベツ等の葉野菜を中心とした全国有数の野菜産地として発展してきたが、気象変動の激化に伴う作柄の不安定化、連作障害の発生、労働力や担い手の確保等、産地の持続化には課題がある。

※1の事業実施地域の現状について、実施しようとしている環境負荷軽減の取組の実施状況等、課題と認識している点について具体的に記載。

3 事業実施地域の目指すべき姿

地元産堆肥の高付加価値化による利用推進と化学肥料の使用量低減を目的として、地元産堆肥を原料としたペレット堆肥入複合肥料の開発・製造及び活用により、葉野菜類で環境にやさしい栽培の拡大や、生分解性マルチの2作利用（レタス類ーキャベツ・はくさい等2作体系）により作業の省力化や石油由来の資材削減を図る。

また、新たにペレット堆肥の生産や利用の拡大により化学肥料使用量の削減をしていく。

※事業実施地域内へのグリーンな栽培体系の普及により、2に記載した課題がどう改善され、どのような姿になるのかを具体的に記載。

第2 グリーンな栽培体系の普及に向けた取組

1 今後普及すべきグリーンな栽培体系

ア 取り入れる技術

	取り入れる技術	期待される効果
環境にやさしい栽培技術	化学肥料の使用量低減 ・混合堆肥複合肥料（堆肥入り有機ペレット複合肥料）の普及	化学肥料の削減 生産資材費の低減
省力化技術	生分解マルチの利用 ・2作利用によるマルチ除去、畝立作業の削減	作業工程の削減（マルチ除去・2作目の畝立） 作業時間の削減 廃プラスチックの削減

※環境にやさしい栽培技術欄には、表紙で選択した環境負荷軽減の取組に対応する技術を記載。

※省力化技術欄について、環境にやさしい栽培技術欄に記載した技術と同一技術の場合は再掲する。

※期待される効果は、検証結果、計画書に添付したバックデータ等を踏まえて、可能な範囲で定量的に記載する。

※行は適宜追加してください。

イ 現在の栽培体系

項目	作業時期												備考																																
	4月			5月			6月			7月				8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月										
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下						
作業段階	1作目:レタス 定植-管理			病害虫防除			収穫-後片づけ			マルチ除去																																			
技術							耕耘、施肥、一定植			管理・病害虫防除			収穫-後片づけ、耕耘															堆肥散布、施肥、 整地、畝立て、 マルチ張り																	

※事業実施地域における現在の一般的な営農体系を記載。

※作業時期は作物の栽培期間等に応じて調整可能。



ウ グリーンな栽培体系

項目	作業時期												備考																																
	4月			5月			6月			7月				8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月										
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
作業段階	1作目:レタス 定植-管理			病害虫防除			収穫-後片づけ																																						
技術							施肥、一定植			管理・病害虫防除			収穫-後片づけ、耕耘															施肥、整地、 畝立て、マルチ張り																	
							生分解性マルチのため 撤去せずに利用 収穫後の溝穴に施肥を 実施																								混合堆肥複合肥料(堆肥入り 有機ペレット肥料)利用により 堆肥散布の省略														

※アで記載した「環境にやさしい栽培技術」及び「省力化技術」が、栽培体系のどの工程に取り入れられるのか明確に記載。

2 新たな栽培体系の普及に向けた目標

ア 環境負荷軽減の目標

指標		年度	R 4 (現状値)	R 9 (目標年次)	増減率 (%)	備考
1	化学肥料の使用量低減 (レタス)		40～80kg/10a 化学合成肥料 (さくあさま野菜1号 (N15-P15-K10) 等)	40～80kg/10a ペレット堆肥入複合肥料 (望ちゃん (N12-P3.4-K6) 等)	▲20%	JA佐久浅間施肥基準
	単位	kg/10a				
2	化学肥料の使用量低減 (キャベツ、はくさい)		70～100kg/10a 化学合成肥料 (さくあさま野菜1号 (N15-P15-K10) 等)	70～100kg/10a ペレット堆肥入複合肥料 (望ちゃん (N12-P3.4-K6) 等)	▲20%	JA佐久浅間施肥基準
	単位	kg/10a				

※指標欄については、表紙で選択した環境負荷軽減の取組に応じて指標を設定する（化学農薬の散布回数、成分数、化学肥料の使用量、窒素成分量 等）。

また、設定した指標の単位が分かるように記載。

※目標値は表紙の目標年次における目標値を記載。

※増減率は $\text{目標値}/\text{現状値}-1 = \text{増減率}$ で算出。

※化学農薬の使用量低減の取組については、化学農薬の使用量の低減割合の目標を設定する。ただし、導入する技術により、使用量の低減の確認が困難な場合は、取組面積の目標を設定する。

※化学農薬の使用量低減の取組については、どの剤の使用量を削減したか、どの剤からどの剤に切り替えたか分かるように記載。

※化学肥料の使用量低減の取組については、化学肥料の使用量低減割合の目標を設定する。

※有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減の取組については、新たに取り入れる技術の取組目標面積を設定する。面積以外の指標で目標設定ができる場合は追加で設定することも可能。

※温室効果ガスの削減の取組については、ウにおいて取組面積の目標を設定することで、環境負荷軽減の目標設定に代えることができる。複数の技術を取り入れる場合に、個別の技術について取組面積の目標を設定する場合等、グリーンな栽培体系の取組面積以外に目標設定する場合は、アにおいて目標を記載することができる。

※備考欄には、現状値等の出典（現行のJA等の栽培暦、都道府県や市町村等の指標、検証農家の作業日誌や帳簿等からの試算など）を記載。

※1つの栽培体系で複数の環境負荷軽減の取組を組み合わせる場合は、取組ごとに指標を設定し、記載欄が足りない場合は適宜追加する。

イ 省力化目標

指標		年度	R4 (現状値)	R9 (目標年次)	増減率 (%)	備考
1	2 作目 作付準備作業		3 工程 (マルチ除去、施肥、耕起・畝立)	1 工程 (施肥)	▲67%	農家慣行 (聞き取りによる)
	単位	工程				

※指標欄については、原則、取り入れる省力化技術に応じて、作業人員の削減、作業時間の削減、作業工程の削減の目標を設定する。複数設定する場合は、適宜記載欄を追加する。

※目標値は表紙の目標年次における目標値を記載。

※増減率は $\frac{\text{目標値}}{\text{現状値}} - 1 = \text{増減率}$ で算出。

※アシストスーツなど、定量的な目標設定が困難場合は、指標は当該技術を取り入れる面積とし、備考欄を追加して検証を行った農業者に対するアンケート等により確認した省力化の効果を記載。

※備考欄に現状値の出自 (統計値、都道府県の農業経営指標、JA等の栽培暦、検証農家の作業日誌等からの試算など) を記載。

ウ 普及を目指す面積

(単位: ha)

指標		年度	R4 (現状値)	R9 (目標値)	増減率 (%)	備考
対象品目全体の作付面積	レタス		507	552	17%	
	キャベツ		204	250		
	はくさい		159	218		
うち、グリーンな栽培体系に取り組む面積	レタス	}	240	レタス	}	6%
	キャベツ			キャベツ		
	はくさい			はくさい		
普及割合			28%	25%		

※対象品目全体の面積については、事業実施地域全体の面積 (母数) を記載する。水稻 (主食用米) を対象品目とする場合は、水田収益力強化ビジョン等における主食用米作付面積の傾向を踏まえて目標値を設定すること。

※目標値は表紙の目標年次における目標値を記載。

※増減率は $\frac{\text{目標値}}{\text{現状値}} - 1 = \text{増減率}$ で算出。

※「うち、グリーンな栽培体系に取り組む面積」欄には、第2の1のウに記載する「グリーンな栽培体系」に取り組む面積を記載する。

※生分解性マルチへの転換等、1つの栽培体系を複数品目に適用する場合等であって、品目別に目標を設定する場合は、品目ごとに表を作成。

第3 関係者の役割分担及び取組内容

構 成 員	役割分担及び取組内容				
	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度 (目標年次)
長野県佐久農業農村支援センター 農業農村振興課(事務局) 技術経営普及課	<ul style="list-style-type: none"> ・事業推進 ・技術指導 ・モデル園設置運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業推進 ・技術指導 ・モデル園設置運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業推進 ・技術指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業推進 ・技術指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業推進 ・技術指導
佐久浅間農業協同組合 営農経済部 企画振興課 野菜課 生産資材課	<ul style="list-style-type: none"> ・農業者との調整 ・技術指導 ・モデル園設置運営 ・施肥基準等の検討 ・資材調整 ・混合堆肥複合肥料(堆肥入有機ペレット複合肥料)の利用推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業者との調整 ・技術指導 ・モデル園設置運営 ・施肥基準等の検討 ・資材調整 ・混合堆肥複合肥料(堆肥入有機ペレット複合肥料)の利用推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業者との調整 ・技術指導 ・モデル園設置運営 ・施肥基準等の検討 ・資材調整 ・混合堆肥複合肥料(堆肥入有機ペレット複合肥料)の利用推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業者との調整 ・技術指導 ・施肥基準等の検討 ・資材調整 ・混合堆肥複合肥料(堆肥入有機ペレット複合肥料)の利用推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業者との調整 ・技術指導 ・施肥基準等の検討 ・資材調整 ・混合堆肥複合肥料(堆肥入有機ペレット複合肥料)の利用推進
JA全農長野 東信事業所 営農資材課	<ul style="list-style-type: none"> ・資材調整 ・混合堆肥複合肥料(堆肥入有機ペレット複合肥料)の利用推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・資材調整 ・混合堆肥複合肥料(堆肥入有機ペレット複合肥料)の利用推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・資材調整 ・混合堆肥複合肥料(堆肥入有機ペレット複合肥料)の利用推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・資材調整 ・混合堆肥複合肥料(堆肥入有機ペレット複合肥料)の利用推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・資材調整 ・混合堆肥複合肥料(堆肥入有機ペレット複合肥料)の利用推進
長野県野菜花き試験場 佐久支場	<ul style="list-style-type: none"> ・導入技術の助言・指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入技術の助言・指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入技術の助言・指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入技術の助言・指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入技術の助言・指導
市町村	<ul style="list-style-type: none"> ・農業者との調整 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業者との調整 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業者との調整 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業者との調整 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業者との調整

※新たな営農技術体系の普及・定着に向けての役割及び取組内容を具体的に記載してください。

※記載欄は適宜追加する等調整してください。